

# H23年度成果物の利活用に関する アンケート調査の実施について (結果報告)

環境省自然環境局自然環境計画課

平成25年2月28日

# 3-1. 「里地里山保全活動の自己評価シート」の利活用に関するアンケート調査結果

## 【目的】

○平成23年度に作成した「里地里山保全活動の自己評価シート」の活用状況、改善点等を把握するため、保全活用団体を対象にアンケート調査を実施。

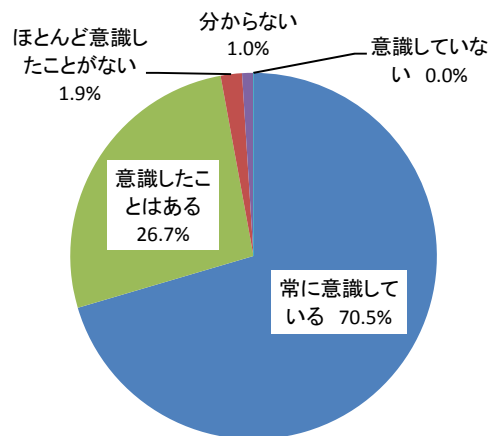
## 【アンケート調査】

○自己評価シート作成に協力いただいた275団体へアンケートを発送。有効回答数105団体(回答率38.2%)の回答結果から取りまとめを実施。

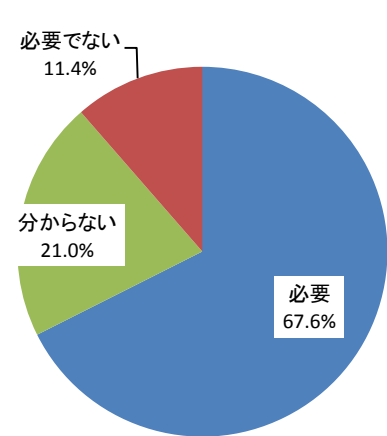
### ① 活動の自己評価について

- ほとんどの団体は活動の効果や目標設定に対して意識しており、また、多くの団体が自己評価(点検)が必要と感じている。(図1, 2)
- 既に自己評価(点検)を行っている団体と今後行いたいと感じている団体を合わせると約8割を占め、自己評価(点検)への意識は高い。(図3)
- 既に自己評価シートを活用している団体と今後活用予定の団体を合わせると約7割を占め、本シートの有効活用が認められる。(図4)
- 本シートを活用することによる期待する効果として、多くの活動団体が活動の効果について客観的に評価できると感じている。(図5)

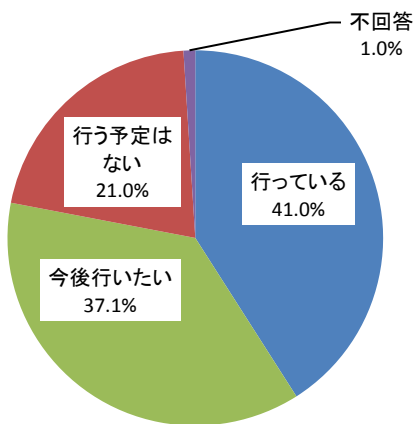
(図1) 活動の効果や目標設定に対する意識



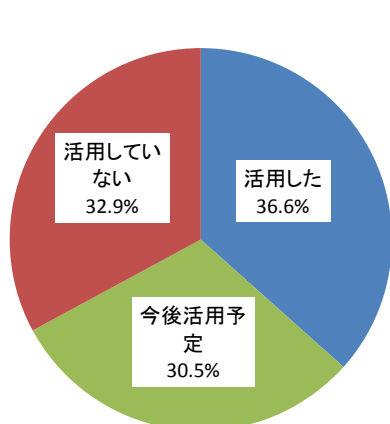
(図2) 自己評価(点検)の必要性



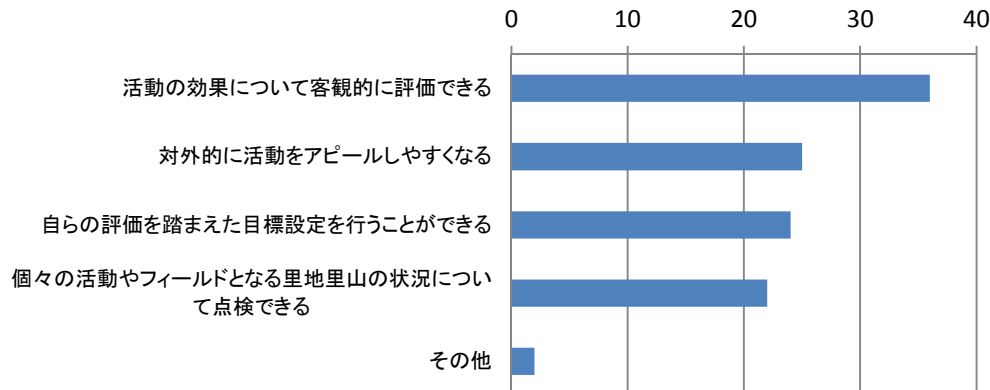
(図3) 自己評価(点検)の実施状況



(図4) 自己評価シートの活用状況



(図5) 自己評価シート活用に期待する効果

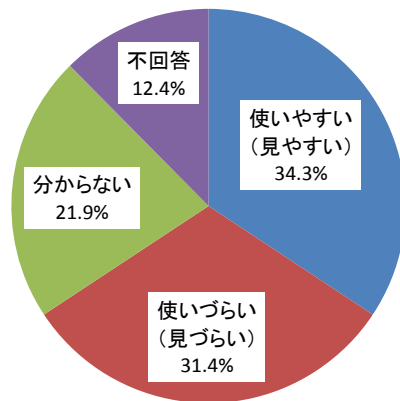


# 「里地里山保全活動の自己評価シート」の利活用に関するアンケート調査結果

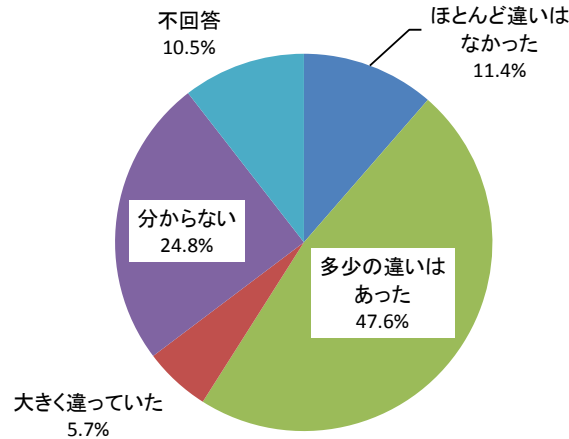
## ② 自己評価シートについて

- 本シートを使いやすいと回答した団体が約3割いる一方、使いづらいと回答した団体もほぼ同数であった。(図1)
- 本シートの客観的評価と実際の評価は、多少の違いはあるものの、概ね一致しているものと考えられる。(図2)
- 評価結果及び今後の活動目標に対して約半数の団体が参考になると感じており、本シートの一定の有効性は確認できた。(図3, 4)

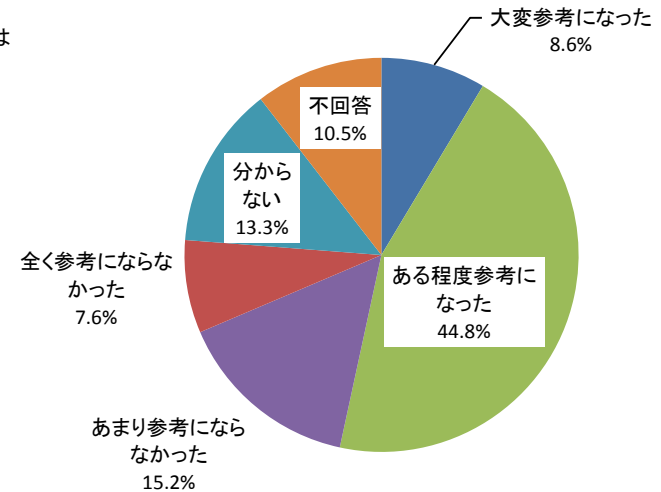
(図1) 自己評価シートの使いやすさ



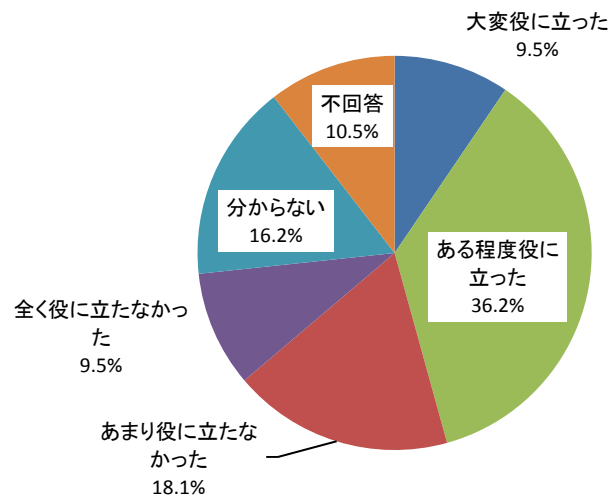
(図2) 自己評価シートの「客観的評価」と実際の評価とのずれ



(図3) 自己評価シートの「自己評価結果」が参考になったか



(図4) 自己評価シートの「今後の活動目標」の有用性



## ③ 自己評価シートに対する意見・要望

- 里地里山の保全活動は地域性があり、多岐に渡るので、統一した評価は難しい。
- 本シートを手本に自分たちの活動内容に添った項目を入れて作りたい。
- NPO法人として長年活動を進めており、多方面から様々な評価を受けているため、本シートは必要ないが、日本全体の取組の中では、本シートは必要なのかもしれない。
- 評価の前にそれぞれの活動の目的や意義を確認、共有するためのシート等があるとよい。

## 3-2. 「典型的な里地里山の選定手順」の利活用に関するアンケート調査結果

### 【目的】

○平成23年度に作成した「典型的な里地里山の選定手順」の活用状況、改善点等を把握するため、各都道府県及び市町村を対象にアンケート調査を実施。

### 【アンケート調査】

○全国都道府県及び市町村1,789自治体へアンケートを送付。有効回答数465自治体(回答率26.0%)の回答結果から取りまとめを実施。

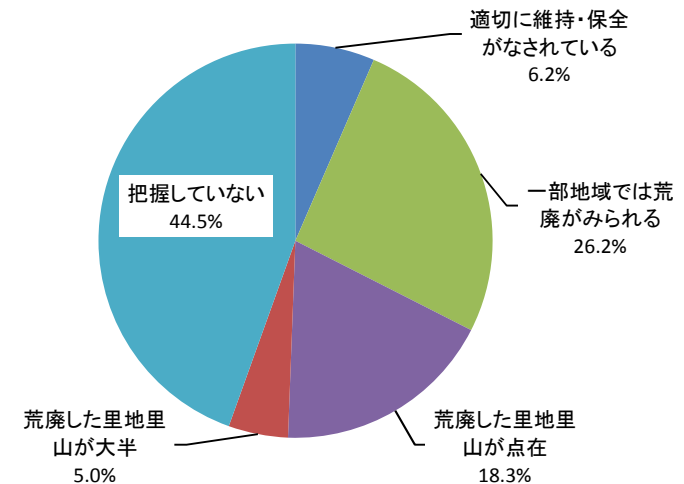
### ① 自治体における里地里山保全について

○6%(28自治体)の自治体においては既に地域の里地里山が適切に維持・保全がなされているとの回答がなされた。その他の自治体では荒廃がみられるとの回答がなされたが、約半数の自治体は状況自体を把握していない模様。(図1)

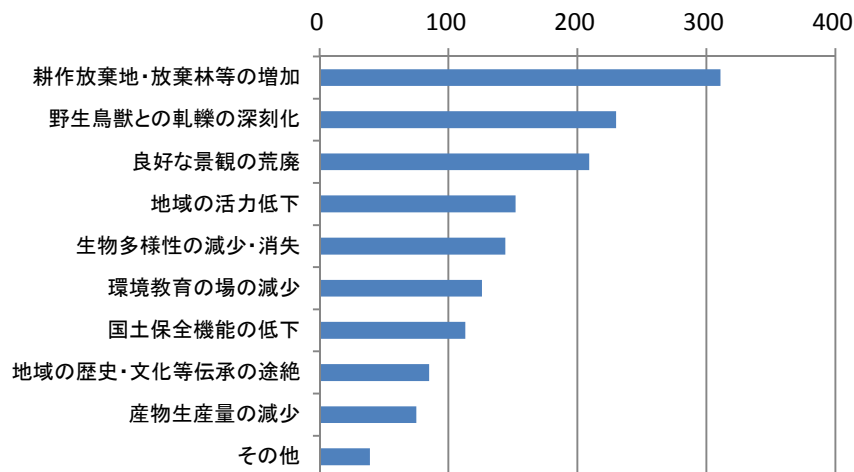
○多くの自治体で耕作放棄地・放棄林等の増加という問題を抱えている。(図2)

○半数以上の自治体が「保全すべき」里地里山が分からない、区分の予定はないと回答しており、関心が薄い。(図3, 4)

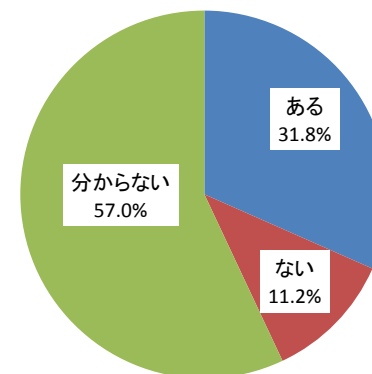
(図1)地域の里地里山の維持管理状況



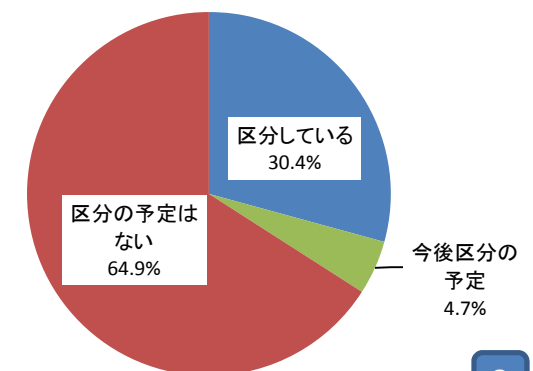
(図2)里地里山にかかる問題



(図3)「保全すべき」里地里山の有無



(図4)守り活かしていく里地里山としての区分の実施状況

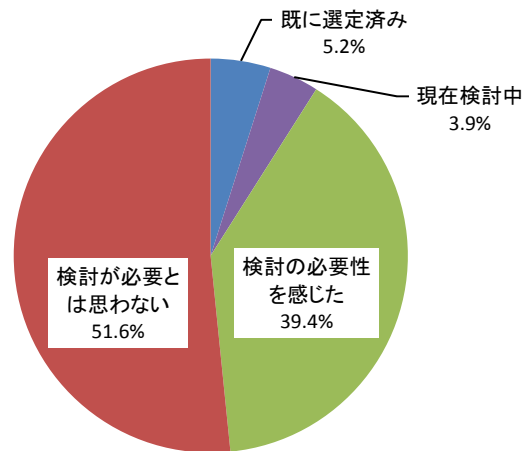


# 「典型的な里地里山の選定手順」の利活用に関するアンケート調査結果

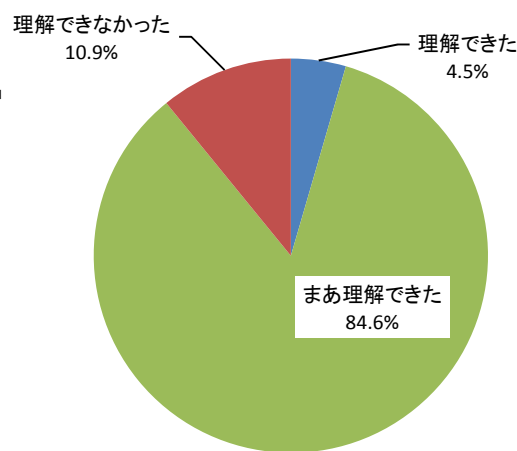
## ② 「典型的な里地里山の選定手順」について

- 本手順を読むことにより、約4割の自治体が選定の必要性を感じ、意識が高まることが確認できた。(図1)
- 本手順は、ほとんどの自治体が理解できる内容となっていることが確認できた。(図2)
- 守り活かしていく里地里山の区分の予定がないと回答した自治体は6割強(P3図4参照)であったが、本手順を理解することにより、今後活用しようとする自治体が約7割となった。本手順の一定の有効性は確認できた。(図3)

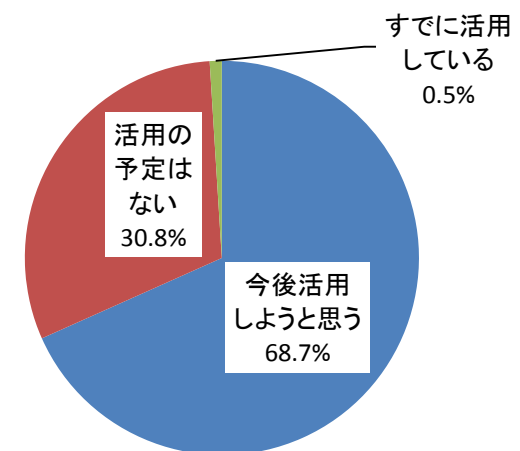
(図1) 典型的な里地里山の選定についての考え



(図2) 具体的な選定手順の理解度



(図3) 「典型的な里地里山の選定手順」活用の意向



## ③ 「典型的な里地里山の選定手順」に対する意見・要望

- 自治体としての具体的な取組がなされていないため、どの部署で対応するのも定まっていない状態。
- 里山は地域の人々に活用されてきた場所であるため、里山整備は「地域主体」を大きなキーワードとしている。整備箇所の選定に際し、重要視するのは「継続的に活用していけるか」という視点であり、「人材の有無」や「地域の熱意」をデータとして視覚化できるとより有意義ではないか。
- 里地里山は地域の生活と一体となった区域であり、選定だけでは問題の解決にはならない。いかに、地元を含めた住民が里地里山を守り、活性化する仕組みづくりに取り組むかが課題であると考えている。
- 選定した里地里山を保全活用するために、どのような手法をとれば良いのか分からない。
- 地域住民や活動団体のなど関わりを持つ視点が抜けている。自治体主導ではなく、住民や活動団体などとワークショップを行い、里地里山エリアはどこで、どのように保全し、利活用すべきかなどを検討し、地域の関わり(保全や利活用に向けて継続的な活動が見込まれるなど)が明確に位置づけられることが選定において最も重要ではないか。